

## 第6回 区西南部地域リハビリテーション研究大会 報告書

日時:2020年2月15日(土)14:00~17:00

会場:玉川区民会館

参加人数: 43名

今回は、冒頭に、区西南部地域の三区の介護保険課より、介護保険(のリハビリテーション)サービスについての報告を取り入れ、その後、講演とシンポジウムを行った。



渋谷区



目黒区



世田谷区

### 【基調報告内容】

- 区の人口状況(ピラミッド)
- 圏域別高齢者人口
- 高齢者人口の推移
- 介護保険の状況(第1号被保険者数/要介護認定者数/保険給付費)
- 給付費と高齢者人口の相関関係
- 保険給付費の推移
- 介護保険サービス3区分(居宅/地域密着/施設)ごとの給付費と受給者数
- 訪問・通所リハの給付費と1か月の受給者数
- 訪問・通所リハの事業所数

3区からの基調報告は新たな試みであったが、参加者からは、「各区の様子がよくわかった」「介護保険の内訳や細かな部分を知ることができた」という声のほか、「介護保険サービスの現在の状況、これからの予想ができた」「もっと介護保険について知りたいと思った」「3区の行政指標がわかった」などの声が聞かれ、おおむね好評であった。

しかし、その後のシンポジウムにおいて、今回発表されたデータに、訪問看護ステーションから提供されているリハビリテーション(の訪問件数、受給者数)データが含まれていないことから、リハサービスの全体把握としては不足しているのではないかと指摘もあり、報告内容への課題を残す形となった。

### 【特別講演】

松坂先生をお招きし、「地域包括ケア体制構築を推進する地域リハビリテーション～長崎の取組と全国調査から～」をテーマでご講演頂いた。

「リハビリテーション」の本来の意味を振り返り、「その人らしさ」につながるリハビリテーションの在り方や、地域包括ケア推進のカギなど、長崎市の在宅支援リハビリセンターの具体的な取組と結び付けてお話しいただいた。

介護予防については、全国調査のデータを用い、市町村がリハ専門職に期待する支援として、身体機能の改善だけでなく、住民の主体性育成への支援が求められていることが語られ、実践に際しては地域リハ支援センターに協働施設がある方が数多く取り組むことが出来ていることが示された。地域からは広義のリハビリテーション機能の発揮が求められてきており、それに応えていくためにも地域リハ支援センターの活動に対し協力できる施設、団体、機関とのネットワークづくりが必要であると考えられた。また、生きがいづくり、場づくりなどの推進に向けて、地域包括ケアに資する指導的療法士の育成に地域リハ支援センターが関与している例も取り上げられていた。現在区西南部では療法士に特化した研修は企画されていないが、指導者養成への積極的関与も必要と考えられた。

アンケートでは「(現状が)型にはまった支援になっているのではないかと、回復期の期限に迫られて“らしさ”を忘れていたことに気付けた」といった、「その人らしさ」を再考する機会を得たという感想が複数寄せられた。

また、具体的事例や取組も多く盛り込まれていたことから「東京の将来の地域リハに対するヒントがあった」との感想も聞かれた。長崎県が、高齢化率25%を超えてから、10年が経つ。その間に実施された、自主グループ活動の促進や、ボランティアの育成など、介護予防に関するリハの立場からの取組やまちづくりへの働きかけを提示していただいた。長崎県の取り組んできた道は、この区西南部地域がこれから向かう道でもある。今後の区西南部地域の地域リハビリテーション活動の方向性を示す講演であった。



講師:  
全国地域リハビリテーション  
支援センター連絡協議会 会長  
松坂誠應先生



渋谷幹事  
田中氏

目黒幹事  
佐藤氏

世田谷幹事  
鹿島氏

### 【シンポジウム】

各区の幹事に登壇頂き、事務局からの活動報告の後、地域リハ推進への取り組みや課題についてディスカッションを行った。前段の松坂先生の講演で、医師会との連携がスムーズであることが全国調査結果として示されており、そこから「医師会との連携強化」に向けた討議がなされた。渋谷区幹事でもある、渋谷区医師会の田中清和先生より、医師会へ「報告・連絡・相談」を行うことが大切であること、特に「相談」は重要であり、医師会は地域において「責任ある立場」にあるので、相談するとそれに対して必ず返答を出す。それによって巻き込むことが出来るのではないかとといった提案がなされた。

また、目黒区幹事であるケアマネジャー佐藤睦子氏からは、報酬上、多職種との連携に対し加算（リハマネジメント加算、生活機能連携向上加算）が算定できるようになり連携強化が図られたが、実際にはあまり活用されていない現実に対して問題提起がなされた。また、区西南部地域リハ支援センター主催の研修等への参加にケアマネジャーの参加率が高く、積極的であることに対して、実務を通して、ネットワークの必要性に対する意識が高いことが挙げられるのではないかと語った。

東京都理学療法士協会世田谷支部長でもある、鹿島雄司氏からは、リハビリはこれまで「個」へ対応してきたが、今後「多」への対応に代わっていくことが考えられ、集団への関わりができることが求められている、ということが示された。

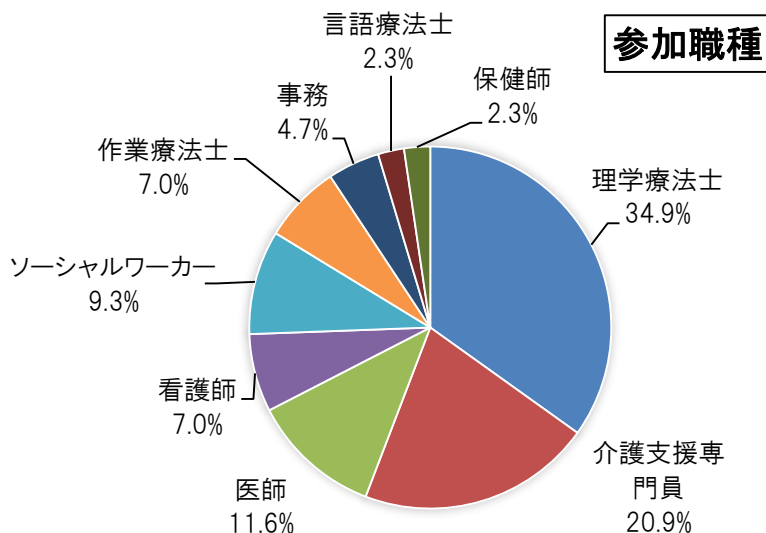
アンケートでは「それぞれの立場での話が聞けて参考になった」といった意見が聞かれた一方、「地域包括ケアにおける看護師の役割について話が出なかったのが残念だった」という意見もあった。地域リハ活動においては課題も多く、限られた時間の中で触れられなかった課題もあった。定期的にこのような場を設ける必要性が感じられた。

## アンケート結果

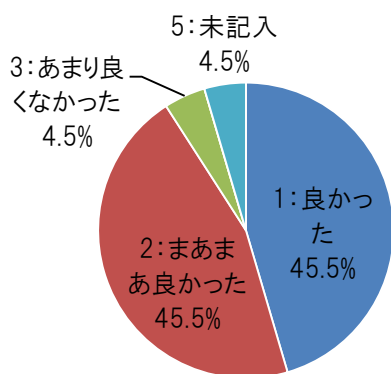
参加者 43名

職種内訳

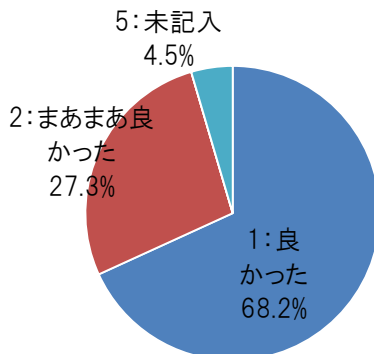
項目	人数
理学療法士	15
介護支援専門員	9
医師	5
看護師	3
ソーシャルワーカー	4
作業療法士	3
事務	2
言語療法士	1
保健師	1
総計	43



### 基調報告の内容について



### 講演の内容について



### シンポジウムの内容について

